

インターバンクの声（2016 年 10 月 4 日）

先月は6ヵ月ぶりに景気判断の分岐点となる 50 を下回った米サプライ管理協会 (ISM) 製造業景況指数だったが、昨夜発表された 9 月分は前月結果に加え市場予想をも大きく上回った。先月は、この ISM 製造業景況指数の悪化が米国の利上げ期待を大きく後退させ、ちょうど ISM の発表時刻頃に原油価格が下げていることも重なり、円相場は 103 円台後半から前半まで円買いが進んだ。昨日は先月とは正反対の結果となり、相場材料に乏しい中、101 円台前半から中盤越えまでドル買いが進んだ。昨日も先月同様、ISM の発表前から原油価格の下落が確認されていたが、為替相場への影響は限られたようだ。この 2 週間近く、円相場はなかなか 102 円台を回復出来ない。昨晚もドイツ銀行の住宅ローン担保証券 (MBS) の不正販売をめぐる米司法省からの和解金の大幅減額は最終案ではないとの報道もあり、後退していたはずの経営不安説が再び強まったり、メイ英首相が欧州連合 (EU) 離脱に向けた交渉を来年 3 月末までに開始するとして、英国経済の先行き不安が高まったことによる円買い需要もあったようだ。やはり 102 円越えは、週末の雇用統計の結果を待つ必要がありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。